

◇ エアコンのお得な使用方法 ◇

工夫の仕方で省エネと快適に

梅雨が明けて全国的に夏真っ盛りの季節となってきました。

昨今は毎年のように最高気温が更新されています。外気温によって、夏日く真夏日く猛暑日となり、時には酷暑や極暑と表現されるようになりました。

この暑い夏を乗り切るためにエアコンは欠かせないものとなっています。しかしエアコンは使用方法によって使用電力を多くする場合があります。こまめに電源を入り切りすることで節電につながるよう心掛ける方も多いことでしょう。

実はこの使用方法によって使用電力を多くする場合があります。

「ファースの家」は、夏も冬もエアコンを1度稼働させるとそのシーズンはずっと稼働させ続けます。つまりシーズン自動稼働をさせ、電源の入り切りを行わないことで驚異的な省エネ性能となっています。

例えるなら冷蔵庫と同じ考えです。冷蔵庫は中のものを一度冷やすと、それを維持するためだけのゆっくりとした運転になります。

「ファースの家」は、6月頃の構造体の温度 26℃程度をキープしたまま9月末の秋口まで持続させるような仕組み(冬は真逆の暖房設定)にしています。連続自動稼働が省エネに

ところが電源を一度切ってしまうと中のものが暖められてしまい、これを、再度冷やすためには大きなエネルギーを必要とします。

また冷蔵庫のドアを頻繁に開放することで、せっかく冷やされたエネルギーが外に漏れてしまい、またこの分を補填するために電力を使用します。

これを家に当てはめて考えますと答えは単純です。「ファースの家」に限らず、一定以上の気密や断熱がなされている家では、買い物などで1~2時間家を空ける程度であれば、エアコンを稼働したままで出かけても、電気代はほとんど変わらないか、電気代が下がるケースがあります。

とくに鉄筋コンクリートのマンションなどは、隙間が少ない(高気密)建物ですので、エアコン入り切りするより、連続自動稼働の方がお得になります。

最近では毎年のように熱中症による被害がニュースで報道されます。

少しの工夫や考え方を考えることで、快適に、健康に、そして省エネに暮らせることもあります。

是非一度お試しください。

(著 藤原智人)

◇ 湿度と体感温度 ◇

北海道は梅雨前線の北端が津軽海峡付近までなので梅雨がありません。また真夏になっても本州より湿度が低いため 28℃前後でも爽快感があります。

この湿気をどのようにコントロールするかは、健康で省エネ住宅を構築する際のキーワードとなりそうです。

「ファースの家」は当初から気温と湿度を一体化と見なし、いわゆる調湿機能を有することを優先して研究開発された住宅工法です。

家の中の湿度をコントロールするには、除湿器やエアコンの除湿運転など、機械的に除湿する方法もありますが、湿気を入れない為に極めて強固な気密層が必要です。

外部の湿気が入ってくると冷房中の場合、エアコンは室内機フィンに結露します。結露する際に凝縮熱が発生しエアコンは、熱があるとみなして稼働量を大きくします。

一般の換気扇は、外部の新鮮空気を取り込むのが目的ですが、膨大な量の湿気をも呼び込んでしまいます。「ファースの家」には、特殊な熱交換式換気扇を装備しており、入ろうとする湿気を、熱交換換気扇の内部に装着したエリメント(素子)で半分近くを外部に除去するようになっています。

そのためには、シームレス状の気密層が必須です。調湿された「ファースの家」で、常に北海道のように爽やかな居住空間を構築してください。

(著 藤木幸太)

孝太の知恵袋

包丁いらずで簡単皮むき

最近では包丁を使えない人が増えているようだねえ。それは、あんまり良いことじゃないような気もするけど、でも、包丁は確かに、使い慣れてないと危ないからねえ。

包丁のかわりにアルミホイルをつかって、簡単に野菜の皮をむく方法を教えようかね。

まずは、アルミホイルを適当な分だけくしゃくしゃに丸めておくれ。それを野菜の皮にくっつけてこするだけで、いとも簡単に野菜の皮がむけるんだよ。人参やじゃがいも、大根など基本的な野菜はアルミホイルだけで皮を薄くむくことができるんだよ。

包丁を使うのが苦手な人や、子ども、あとはキャンプのときなんかにも便利だねえ。